

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第36週の発生動向

全数報告の感染症 (36週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2 例。
- 4 類感染症：報告なし。5 類感染症：後天性免疫不全症候群 2 例、梅毒 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	女	無症状病原体保有者	—
			50歳代	男	肺結核	検診胸部X線異常
		高鍋	20歳代	女	疑似症患者	咳
3類	腸管出血性大腸菌感染症	日南	20歳代	男	—	腹痛、水様性下痢、発熱、O111(VT1、2産生)
		日向	0~4歳	男	—	腹痛、水様性下痢、血便、O26(VT1産生)
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	20歳代	男	急性HIV感染症	発熱、全身性リンパ節腫脹、全身倦怠感
		日南	20歳代	男	無症候性キャリア	—
	梅毒	日南	20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹

定点把握の対象となる5類感染症

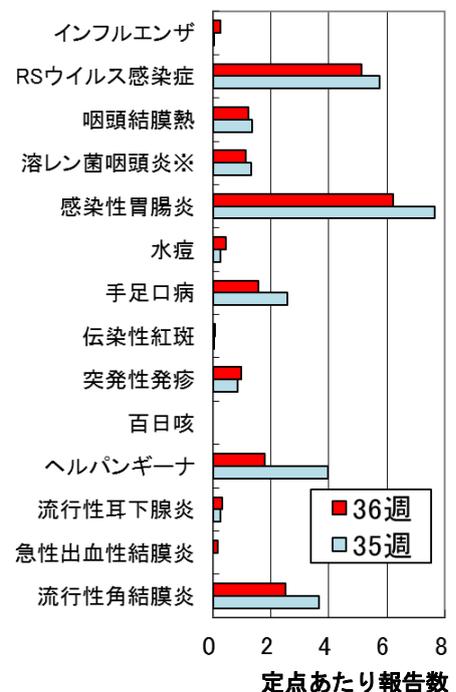
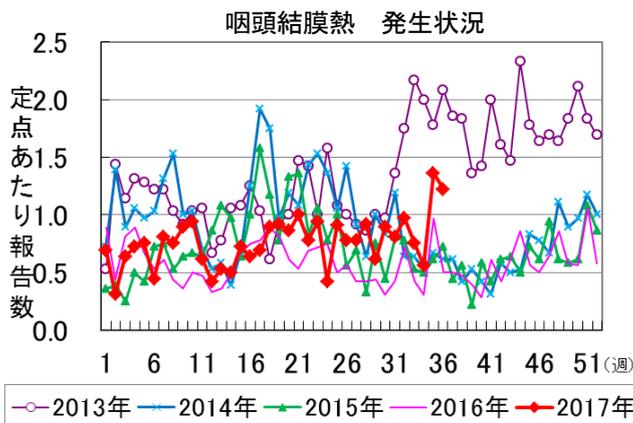
・定点医療機関からの報告総数は713人(定点当たり21.9)で、前週比79%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと水痘で、減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナである。

《前週との比較》

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【咽頭結膜熱】

報告数は44人(1.2)で、前週比90%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値*(0.94)の約1.3倍である。都城(5.0)、日南(2.3)保健所からの報告が多く、年齢別は6ヶ月~2歳が全体の約6割を占めた。

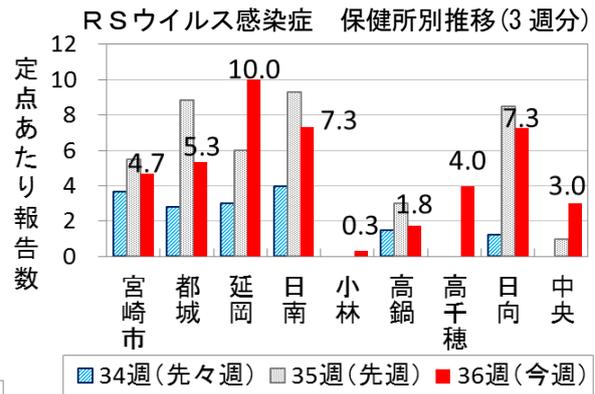
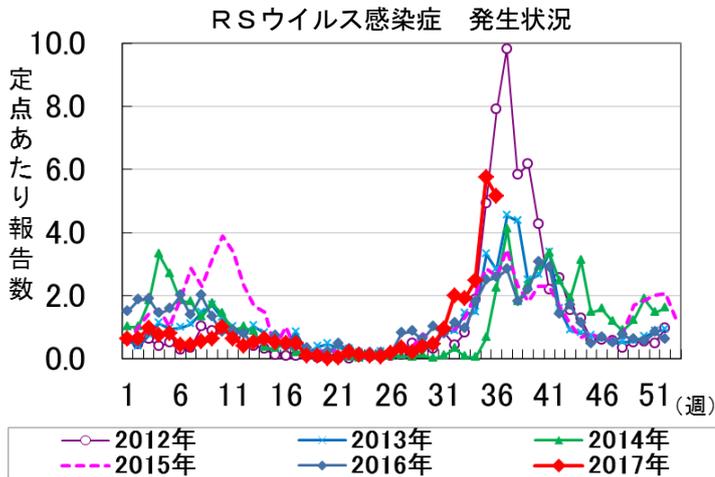


【RSウイルス感染症】

報告数は185人(5.1)で、前週比89%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値*(3.8)の約1.4倍である。延岡(10.0)、日南、日向(7.3)保健所からの報告が多く、年齢別は6ヶ月~1歳が全体の約7割を占めた。

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均



★基幹定点からの報告★
 報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	咽頭結膜熱(5.0)
延岡	急性出血性結膜炎(1.0)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・急性出血性結膜炎(1.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 29 年 9 月 11 日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O119:HUT)	0~4歳	男	2017.08.17	発熱(39.0℃)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2017.08.30
EPEC(OUT:HUT)	20歳代	男	2017.08.22	-	便	2017.09.01
EAggEC(O127a:H21)	0~4歳	男	2017.08.21	-	便	2017.08.25
EPEC(OUT:H6)	20歳代	男	2017.08.22	-	便	2017.09.01
Salmonella Miyazaki (O9:l,z13:1,7)	5~9歳	男	2017.08.22	-	便	2017.08.30
Salmonella Stanley (O4:d:1,2)	0~4歳	女	2017.08.25	発熱(39.4℃)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2017.08.30
ETEC(OUT:H40)	60歳代	男	2017.08.25	-	便	2017.09.01
Staphylococcus aureus	10歳代	女	2017.08.28	発熱(40.6℃)、頭痛、発疹、紅斑、ショック症状、低血圧	皮膚	2017.09.07
EHEC(O157:H7 VT1,2)	0~4歳	男	2017.08.31	下痢	便	2017.08.31
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	5~9歳	男	2017.09.01	発熱(38.9℃)、下痢、右下肢ふるえ	便	2017.09.05
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	20歳代	男	2017.09.01	-	便	2017.09.07
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	0~4歳	男	2017.09.04	-	便	2017.09.07

○挫傷部位の皮膚から分離された *Staphylococcus aureus* (黄色ブドウ球菌) から toxic shock syndrome toxin (TSST-1) が遺伝子検査により検出された。TSST-1 は黄色ブドウ球菌の 5~25% が産生し、感染部位によって産生された毒素が血流に入ること、発赤や発疹、発熱、ショック症状といった toxic shock syndrome (TSS) を起こす。黄色ブドウ球菌は、ヒトの皮膚や腸管内に常在するが、女性では月経中のタンポンの長時間の使用での菌の異常な増殖による TSS の報告があるため注意が必要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2017.07.10	手足口病、紅斑(紅斑丘疹)	咽頭ぬぐい液	2017.09.01
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2017.06.23	手足口病、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.09.01
パレコウイルス1型	0～4歳	男	2017.06.17	ウイルス性腸炎、胃腸炎(下痢)	便	2017.09.01
ヒトヘルペスウイルス6	0～4歳	男	2017.06.08	手足口病、37.3℃、口内炎	咽頭ぬぐい液	2017.08.28

○手足口病の乳幼児2名からコクサッキーウイルスA6型が分離された。

○乳児1名からパレコウイルス1型(HPeV-1)が検出された。日本ではHPeV-1とHPeV-3の検出が多い。HPeV-1は感染しても軽度の胃腸炎症状や呼吸器症状ですむ場合が多い。HPeV-3は大人が感染しても感冒様症状ですむ場合が多いが、新生児や乳児が感染すると脳炎や髄膜炎を起こし重症化する場合があります、注意が必要である。

🇯🇵 全国 2017 年第 35 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 35 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	371 例				
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	210 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	7 例	A型肝炎	4 例	重症熱性血小板減少症候群	3 例
	つつが虫病	1 例	デング熱	10 例	日本紅斑熱	6 例
	マラリア	2 例	レジオネラ症	52 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	13 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	28 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 例
	後天性免疫不全症候群	10 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	2 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	19 例	水痘(入院例)	1 例	梅毒	103 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	2 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	風しん	2 例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比105%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナである。

RSウイルス感染症の報告数は10,189人(3.2)で前週比153%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.61)の約5.3倍である。山形県(8.4)、徳島県(8.0)、長崎県(7.2)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月～2歳が全体の約8割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2017年8月>

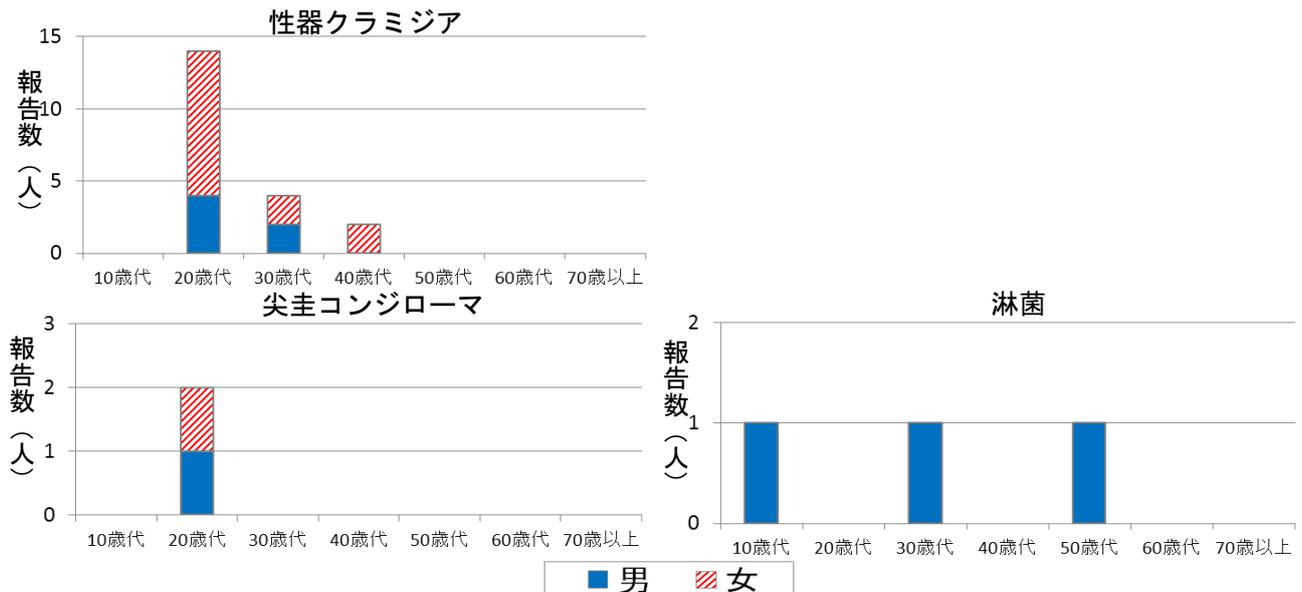
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は25人(1.9)で、前月比68%と減少した。また、昨年8月(2.5)の約0.8倍である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月の0.8倍、昨年8月とほぼ同率である。20歳代が全体の7割を占めた。(男性6人・女性14人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告なし。
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月の0.4倍、昨年8月の2.0倍である。
(男性1人、女性1人)
- 淋菌感染症：報告数3人(0.23)で、前月の約0.8倍、昨年8月の約0.3倍である。(男性3人)



【全国】 定点医療機関総数：988

定点医療機関からの報告総数は4,164人(4.2)で、前月比101%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,135人(2.2)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症770人(0.78)で前月比100%、尖圭コンジローマ475人(0.48)で前月比98%、淋菌感染症784人(0.79)で前月比111%である。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比100%と横ばいであった。また昨年8月(1.9)の約1.6倍である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数21人(3.0)で、前月の約1.1倍、昨年8月の約1.9倍である。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：474

定点医療機関からの報告総数は1,501人(3.2)で、前月比99%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,324人(2.8)で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症169人(0.36)で前月比124%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比67%である。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2017年 第36週(9月4日～9月10日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2	16		16							
	定点あたり	0.03	0.27	0.00	1.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	207	185	47	32	40	22	1	7	4	29	3
	定点あたり	5.75	5.14	4.70	5.33	10.00	7.33	0.33	1.75	4.00	7.25	3.00
咽頭結膜熱	報告数	49	44	3	30	1	7		3			
	定点あたり	1.36	1.22	0.30	5.00	0.25	2.33	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	48	41	25	4	2	5		1		3	1
	定点あたり	1.33	1.14	2.50	0.67	0.50	1.67	0.00	0.25	0.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	275	224	32	67	5	23	33	26	4	24	10
	定点あたり	7.64	6.22	3.20	11.17	1.25	7.67	11.00	6.50	4.00	6.00	10.00
水痘	報告数	10	16	11		2			2		1	
	定点あたり	0.28	0.44	1.10	0.00	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	93	57	14	9	15	4	2	3	1	9	
	定点あたり	2.58	1.58	1.40	1.50	3.75	1.33	0.67	0.75	1.00	2.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	3		1	2						
	定点あたり	0.03	0.08	0.00	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	31	35	13	8	3	3	2	2		2	2
	定点あたり	0.86	0.97	1.30	1.33	0.75	1.00	0.67	0.50	0.00	0.50	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	143	64	10	8	17	6	11	4		8	
	定点あたり	3.97	1.78	1.00	1.33	4.25	2.00	3.67	1.00	0.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	9	12	1	1	1	7	1	1			
	定点あたり	0.25	0.33	0.10	0.17	0.25	2.33	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.17	0.00	0.00	1.00						
流行性角結膜炎	報告数	22	15	4	10	1						
	定点あたり	3.67	2.50	1.33	5.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～36週)

2類感染症	結核	132例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	13例(2)				
4類感染症	E型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	12例	つつが虫病	6例
	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	8例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	8例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例
	後天性免疫不全症候群	7例(2)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	13例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	9例(1)	破傷風	4例
	麻しん	1例				

()内は今週届出分、再掲